

持続可能な地域の作り方

～地方創生実現のためのSDGsアプローチ～ vol. 6

感染予防の先にある国内観光の未来

issue+design代表 寛 裕介

この原稿を書いている8月末時点では新型コロナウイルスの感染拡大が収まらず、お盆の帰省も自粛ムードが強かった。国内観光はまだ下火の状態である。「Go To キャンペーン」は始まったものの、感染予防と経済拡大、どちらを優先させるべきなのか日本全体が揺れている。地域の観光関連の事業に携わる方々の反応も、東京からの観光客に「来て欲しい」という声と「とにかく来てくれるな」という声に二分されている。

このような状況ではあるが、私自身は「徹底的な感染予防」を前提に、通常の経済・生活活動に戻すことが望ましい、すなわち旅行も楽しんだ方がよいというのが基本スタンスである。

そこで、我々は様々な自治体職員、飲食・物販・観光関連の事業者、医師や医療介護の専門家などと、感染予防と観光振興を両立させるための方策を議論。この過程で生まれた、主に地域の飲食・宿泊・物販・イベント等の事業者の感染予防のための活動「新型コロナウイルス感染予防Play!」を8月よりスタートした。その活動を紹介する。

新型コロナウイルス感染予防Play!

このプログラムの目的は、地域で人が集う場、飲食・物販・宿泊・イベントなどを運営する事業者が、感染予防の正しい知識とスキルを学び、必要な予防策を身につけることを目的としている。政府や自治体、業界団体などから多数の感染予防ガイドラインが出されており、それを遵守すればいいようにも思える。しかし、実際に現場で実行するのはそれほど簡単ではないという声をよく耳

にする。地域性も、顧客特性も、空間も、コンテンツも、資金力も様々であり、その場によってできる対策、できない対策がある。地域のお祭りなど、ユニークなコンテンツや複雑な形状の空間も多く、スタンダードな感染症対策ではカバーしきれないことが多い。

そこで必要なのが、「自分自身で感染症対策を企画する力」である。この力を身につけるために、プログラムは以下3つで構成される。

プログラム1 体験：感染症予防ロールプレイ

プログラム2 知識：感染症予防の基礎知識

プログラム3 実践：独自予防策プランニング

プログラムの概要

参加者：地域で人が集う場、飲食・物販・宿泊・イベントなどを運営する事業者

人数：数名～50名程度

時間：半日程度

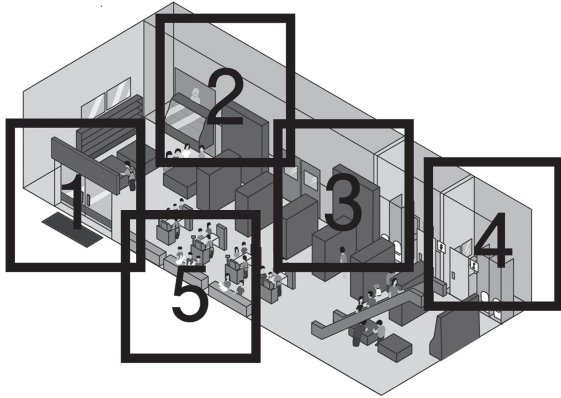
参加形式：集合研修型／オンライン研修型いずれも可能

プログラム1 感染症予防ロールプレイ

第一のプログラムは仮想空間をベースに感染対策をロールプレイするものだ。ある地域のスーパーマーケットの店長という立場になり、店内外の5つの場所（ステージ）を舞台に感染リスクポイントを発見し、そのポイントの感染予防策を考える。ワークは原則として3～5人程度のグループで行う。ステージごとに専門家監修の正解予防策の半数以上を実施できないと、そのスーパーの感染リスクがどんどん上がっていく。

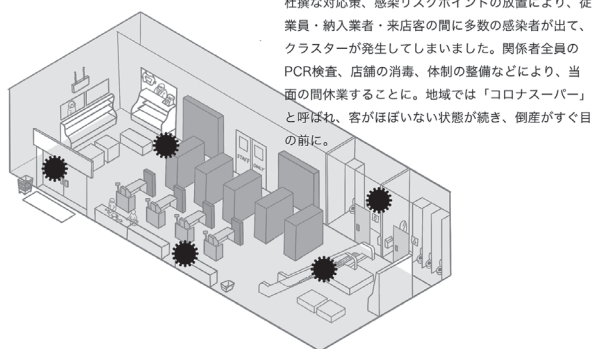
MISSION

感染リスクを発見・解決せよ！



あなたの店の感染状況は

感染リスクV ●●●●●



杜撰な対応策、感染リスクポイントの放置により、従業員・納入業者・来店客の間に多数の感染者が出て、クラスターが発生してしまいました。関係者全員のPCR検査、店舗の消毒、体制の整備などにより、当面の間休業することに。地域では「コロナスーパー」と呼ばれ、客がぼほいない状態が続き、倒産がすぐ目の前に。

出所：issue+design ホームページ

最終5ステージを終えた段階で感染症リスクが5まで上がると、このスーパーはクラスターが発生し、経営が危機的状況になってしまう。

具体的な場を舞台に、ゲーム感覚で仲間とともに楽しみながら感染リスクがある場所、その対策を考える力を養うプログラムである。

プログラム2 感染症予防の基礎知識

続いて、専門家による講義である。このプログラムは3人の感染症関連の医師、研究者の監修のもと、制作されている。単に講義を聞くだけでは知識は頭に定着しない。自分なりに考えた上で聞くことで、自分の思考と知識が結びつきより深く理解することができるようになる。

プログラム3 独自予防策プランニング

最後に、自分が運営に携わる具体的な場での予防策を考えるパートだ。予防策のプランはオンライン上の次の5つのシートで行う。

- ①SITUATION 場の状況
- ②CONTAGION 接触感染リスク低減策
- ③DROPLET 飛沫感染リスク低減策
- ④AIR 空気感染リスク低減策
- ⑤MAP オリジナル感染予防マップを描く

旅館、土産物屋、秋祭り、演劇イベントで、各自が自分なりのプランを考え、仲間に披露し、フィードバックをもらう。また、各自の感染症予防策はオンライン上のチェックリストで採点し、不足している点を把握することもできる。

地域の全事業者に感染症予防リテラシーを

現在、多くの自治体と連携し、このプログラムを全国各地の事業者へ届ける活動を行っている。活動を広げるために鍵を握るのが、住民同士のつながりである。プログラム自体も学び合うことを一つのポイントとしている。また、このプログラムを実践してくれる「感染症予防Play!ファシリテーター」の育成も同時進行で計画している。受講者の中で、自分自身で地域の人向けに開講したいという思いがある方にプログラムの運営スキルと資格を渡す。この知恵の伝道師の役割、地域での場を開催する役割を果たしてもらおうのだ。

新型コロナとともに生きる時代がしばらく続くのは間違いない。そんな時代に地域に必要なのは、医療機関・治療薬・ワクチンだけではない。住民が正しい知識を学ぶ力、自ら考え行動する力、そしてともに学び合う姿勢、感染予防の知と行動が広がるコミュニティの力に違いない。 **G**